

2014.06.02-1 山形市山寺

(宝珠山阿所川院立石寺(ほうじゅさんあそかわいんりっしゃくじ))



仁王門

山寺立石寺と根本中堂

山寺は、正しくは宝珠山立石寺といい、貞観二年（八六〇）清和天皇の勅願によって、慈覚大師が開いた、天台宗のお山である。

慈覚大師は、辺境の東北各地に、多くの寺院を建立したが、立石寺の創建には特に力を入れ、明るく正しい人間を養成する道場を確立し、鎌倉時代には、東北仏教界の中樞をなして、山上山下三百余の寺坊に一千余名の修行者が居住、盛況を極めた。戦国時代、山内が兵火をあびて一時衰退したが、江戸時代には、御朱印二千八百石を賜わって再び隆盛を見、宗教文化の殿堂を築きあげた。現在の立石寺は、境内三十五万坪（百十五万五千平方米）の自然の岩山に、四十余の堂塔を配し、平安初期以来の山岳仏教の歴史を物語る、日本を代表する霊場である。

正面の大きな建物は、国指定重要文化財の根本中堂である。延文元年（一三五六）初代山形城主・斯波兼頼が再建した、入母屋造・五間四面の建物で、ブナ材の建築物では日本最古といわれ、天台宗仏教道場の形式がよく保存されている。

堂内には、慈覚大師作と伝える本尊の木造薬師如来坐像をはじめ、文殊菩薩、毘沙門天などが安置され、伝教大師が中国から比叡山に移した灯を立石寺に分けたものが、今日も不滅の法灯として輝いている。織田信長の焼打で延暦寺を再建したときには逆に立石寺から分けたという、不滅の法灯を堂内で拝することができる。

あきらけく のちのほとけのみよまでも

ひかりつたえよ のりのともしび

YAMADERA (RISSHAKU-JI) AND KONPON CHŪDŌ

The temple of Yamadera, properly called Hōju-san Rishaku-ji, was opened by the Buddhist priest Jikaku Daishi in the second year of Jōgan (860) in response to the imperial edict of the Emperor Seiwa, and is a holy mountain of the Tendai Buddhist sect.

Although Jikaku Daishi erected many temples throughout Tōhoku (what was then a frontier region), he put particular effort into the construction of Rishaku-ji, establishing a seminary which was to nurture the development of cheerful and honest individuals; during the Kamakura Era (1185-1382) the temple became the center of the Tōhoku Buddhist culture and enjoyed a boom period when more than 300 monks and more than 1000 devout resided at the top and bottom of the mountain. Although during Japan's feudal period (approx. 1450-1600) the mountain was razed by the fires of war and temporarily fell into a decline, in the Edo period (1615-1868) the temple officially received 14,000 bushels of rice from the Shōgunate and once again saw prosperity, allowing the creation of a center for religious culture. Presently Rishaku-ji has within its precincts a 1,155,000 square meter area of natural cliffs and mountains, with more than 40 temple buildings distributed throughout; the temple offers much information about the history of mountain Buddhism since the early Heian Era (794-898), and is representative of the sacred places of Japan.



根本中堂(国指定重要文化財)



しょうくくほせいぜん
招福布袋尊
 布袋尊のからんをなまて
 願いごとをお祈りする




 文化財愛護
重要文化財
 立石寺
 本堂
 根本中堂
火気厳禁
 HITACHI

3

芭蕉句碑と清和天皇御宝塔

■BASHŌ KUHI AND SEIWA TENNŌ GOHŌTŌ

■바쇼 비석과 세이와천황 보탑 ■芭蕉俳句碑 清和天皇宝塔 ■芭蕉俳句碑 清和天皇御寶塔

閑さや 巖にしみ入 蟬の聲

— しずかさや いわにしみいる せみのこえ —

元禄二年(一六八九)、おくのほそ道
をたどり、山寺をおとずれた松尾芭蕉の句で、
門人たちが嘉永六年(一八五三)にたてた句碑である。

奥に見える宝塔は、山寺を勅願寺とした清和天皇の供養塔で、天皇の遺徳を慕い、国家の安泰を祈って建立された、当山では最も古い石塔である。

芭蕉の句碑
「閑さや 巖にしみ入 蝉の声」





清和天皇御宝塔

芭蕉はしやうと手水盤ちよろずばん

『閑しずかさや岩いわにしみ入る

蝉せみの聲こゑ』

『おくのほそ道』の旅で、芭蕉が門人の曾良そうらとともに山寺を訪れたのが元禄二年（陽曆）七月十三日の夕刻である。麓の「預り坊」に宿をとり、その足で山上の堂に登った事が「曾良旅日記」には記されている。

二人が山寺を訪れた十年後の元禄十二年四月十九日にその「預り坊（預り里）」より奉寄進されたのが、この手水盤である。

その年の四月十九日というのは「四月中の申の日」に当たってをり、日枝神社の大祭日となっている。またこの手水盤の前面には「預り里」を筆頭として寄進した人の名が数名刻まれている。

また両側面にも十一名の人名が刻まれてをり当時の山寺の様子を探る上で重要な手がかりであり、貴重な文化財である。



市指定天然記念物

やま であ

山寺の大イチョウ

昭和四十年三月五日指定

史跡名勝「山寺」の山内、山寺日枝神社境内の南東隅にあるイチョウの雄株です。根元の周りが約一〇m、地上一・五mのところの幹周りが九・六mを測ります。山形県内では、南陽市宮内熊野神社の大イチョウ、鶴岡市湯田川の乳イチョウなどと肩をならべるほどの巨木で、市内では最大のイチョウの木です。

以前は、樹高およそ三〇mの主幹がりましたが、昭和四十七年九月十七日未明の暴風によって、地上四mほどの上部で折損し、樹冠の大半を失いました。その後、数十年の歳月を経て現在のよう^{ばんかい}に樹勢は挽回し、山寺一円^{ひえ}の守護神である日枝神社のご神木として、歴史の年輪を刻み続けています。

平成二十二年 七月

山形市教育委員会



山寺の大イチヨウ

山寺の大イチヨウは、山寺の守護神として祀られており、その樹齢は古くは不明であるが、樹高は約30メートルに達し、周囲の環境を潤す重要な役割を果たしている。また、その樹皮は非常に厚く、腐食に強く、古くから神聖視されてきた。毎年、この樹の下で祭りが行われ、多くの人々が参拝する。この樹は、山寺の歴史と文化を象徴する存在であり、その存在は山寺の誇りである。

日枝神社
御神木

日枝神社
御神木



閑岩

岩に文あり

蝉の声

西地
能
他
手
名

今
上
頭



山寺立石寺案内図

Yamadera Risshakuji Temple Information Map

야마데라 릿사쿠지 맵 山寺立石寺導遊圖 山寺立石寺導游圖

- 1 根本中堂
KONPONCHUDO TEMPLE
- 2 對面石
TAIMENSEKI STONE
- 3 芭蕉句碑之清和天皇御宝篋
THE MONUMENT OF BASHO'S FUJI AND SEWA TENNO NO GOHOTO
- 4 日枝神社
HIJIRI SHINJYU
- 5 山門
TEMPLE GATE
- 6 地堂
JIDODO
- 7 四寸道
YONSUANCHI PASS
- 8 せみ塚
SEMIZUKA MONUMENT
- 9 香陀洞
MIDAHORA
- 10 仁王門
NINOMON GATE
- 11 山内支院
YAMAUCHISHIN
- 12 奥乃院と大仏殿
OKUNOIN + DAIBUTUDEN
- 13 修行の岩場
SHUJYUDOU IWABA
- 14 開山堂と五大堂
KAZANDU + GODAIDU



開山堂 仁王門
 御開山堂 200
 仁王門 100
 開山堂 100

所要時間 (往復)

ROUND TRIP TIME

芭蕉せみ塚	20分
BASHO SEMIZUKA MONUMENT	20 min
仁王門 (山内第一の景)	30分
NIOMON GATE	30 min
奥之院	40~60分
OKUNOIN	40~60 min

重要文化財

1 根本中堂
KOMPONCHUDO TEMPLE

清和天皇の御宝塔
SEIWA TENNO-NO-GOHOTO

4

日枝神社
HIEI SHRINE

3

芭蕉句碑
THE MONUMENT OF BASHO'S POET

物殿
TUDEN

登山口
TRAIL ROUTE

芭蕉・曾良像
STATUE OF BASHO AND SORA





登山口

關北靈窟

巡拝料		
個人	大人(高校生以上)	1名 300円
	中学生	1名 200円
	小学生以上(4歳児以上)	1名 100円
団体	大人(30名以上)	1名 240円
	中学生・高校生(30名以上)	1名 160円
	小学生以下(4歳児以上)(30名以上)	1名 100円

料	
大人	16 300
中学生	16 200
小学生以上(4歳児以上)	16 100
大人(30名以上)	16 240
中学生・高校生(30名以上)	16 160
小学生以下(4歳児以上)(30名以上)	16 100

巡拝料		
個人	大人(高校生以上)	1名 300円
	中学生	1名 200円
	小学生以上(4歳児以上)	1名 100円
団体	大人(30名以上)	1名 240円
	中学生・高校生(30名以上)	1名 160円
	小学生以下(4歳児以上)(30名以上)	1名 100円

登山口

所要時間(往復)

ROUND TRIP TIME

芭蕉せみ塚	20分
BASHO SEMIZUKA MONUMENT	20 min
仁王門(山内第一の景)	30分
NIOMON GATE	30 min
奥之院	40~60分
OKUNOIN	40~60 min

登山口から360余段

四寸道

奥の院まで640余段

→ せみ塚



平成24年度 公益信託荘内銀行ふるさと創造基金助成事業



四寸道



8 せみ塚 フカ

■ SEMI-ZUKA
■ 매미총 ■ 蝉之墓

松尾芭蕉のおくのほそ道の紀行文に、山形領に立石寺といふ山寺あり。慈覚大師の開基にして、殊に清閑の地なり。一見すべきよし、人々の勤むるによりて、尾花沢よりとつて返し、その間七里ばかりなり。曰いまだ暮れず。麓の坊に宿借り置きて、山上の堂に登る。岩に巖を重ねて山とし、松栢年旧り、土石老いて苔滑らかに、岩上の院々扉を閉ちて物の音聞こえず。岸を巡り、岩を這ひて、仏閣を拝し、佳景寂寞として心澄みゆくのみおほゆ。

閑かさや岩にしみ入る蝉の声ー

芭蕉翁の句をしたためたためた短冊をこの地に埋めて、石の塚をたてたもので、せみ塚といわれている。 ※立石寺(はらひつしやへ)と呼ぶ。



登山口から420余段

せみ塚

奥の院まで580余段

→ 弥陀洞



平成24年度 公益信託荘内銀行ふるさと創造基金助成事業



せみ塚



9 弥陀洞

● 弥陀洞 ● 弥陀洞 ● 弥陀洞

この洞窟は、平安朝の末葉に開削されたといわれ、洞窟の奥に阿弥陀如来の坐像が安置されている。洞窟の入り口は、石段を登るとある。洞窟の内部は、石段を登るとある。洞窟の内部は、石段を登るとある。

弥陀洞(みだほら)



10

に おう もん
仁 王 門

■NIŌ-MON

■니오문

■仁王門

■仁王門

嘉永元年（一八四八）に再建され
たけやき材の優美な門で、左右に
安置された仁王尊像は、運慶の弟
子たちの作といわれ、邪心をもつ
人は登ってはいけなないと、睨みつ
けている。後方の閻魔王がこの門
を通る人たちの過去のおこないを
記録するという。

右の岩穴に見える石塔には、亡
くなった人のお骨が入っており、
他の岩穴にも古い人骨が納められ
ている。



仁王門

13

しゅぎょう

いわば

修業の岩場

■ SHUGYŌ-NO-IWABA

■ 수행의 암벽 ■ 岩石地带修练场 ■ 岩石地带修練場

正面の岩に巖をかさねた岩場は、釈迦ヶ峰といい、危険な岩場を通つて、お釈迦さまのみもとにいたる行場で、出世や欲望のための修行者が、岩場から転落死したことも多かったと伝えられており、今では修行者以外の登山を禁じている。

みちのくの仏の山のいびしんじ
岩秀に立ちて汗ふきにけり

斎藤 茂吉



修行の岩場



五夫壁からの展望



五大堂からの展望



五大堂からの展望



五大堂からの展望



奥之院

三重小塔 (国指定重要文化財)

